

経営比較分析表（令和4年度決算）

兵庫県栗栗市 公立中央総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	12	対象	ド透訓	救臨へ輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
35,309	14,078	－	第2種該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
199	－	－
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
－	－	199
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
129	－	129

グラフ凡例
■ 当該病院値（当該値）
－ 類似病院平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 （従来の再編・ネットワーク化を含む）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
－ 年度	－ 年度	－ 年度

I 地域において担っている役割

西播磨北部地域の特定中核病院として、2次救急医療や周産期医療の提供、また、市内で唯一の病院として本市の地域包括ケアシステムの基幹病院として、急性期から回復期までの診療を行うとともに、退院後の在宅医療まで一貫した地域完結型医療を構築し、市民に安全で安心な医療を提供する。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

前年度に引き続き年間を通して一般病棟をコロナ専用病棟として運用しており、それに加え複数回院内クラスターが発生したこともあり、経常収支比率、医業収支比率、修正医業収支比率、病床利用率が軒並み前年度より減少している。しかし病床利用率、材料費対医業収益比率以外項目においては、類似病院平均値を上回る水準を維持できている。類似病院平均値を下回っている病床利用率においては、コロナ専用病棟の影響が大きいが、一般病棟に戻った際には万全の状況で患者を受け入れる体制を作っておく。また材料費対医業収益比率に関してはジェネリック医薬品の採用推進や診療材料の効率的な使用に努め、経費削減を図っていく。

2. 老朽化の状況について

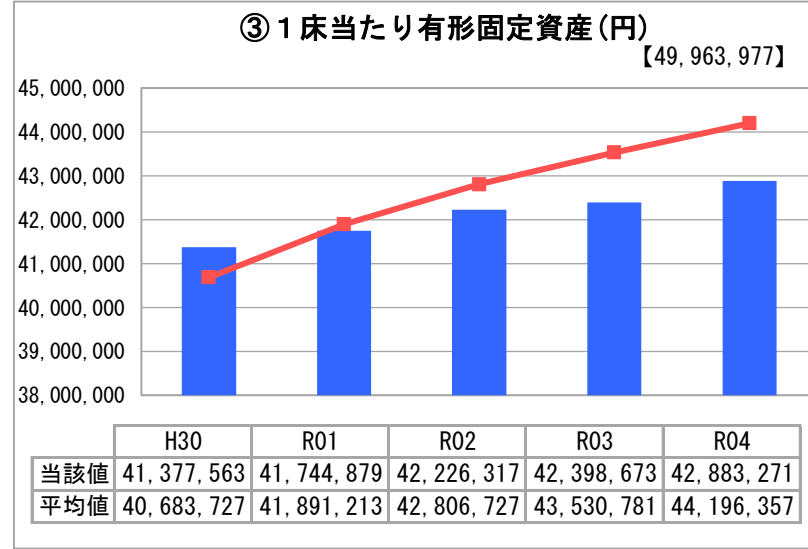
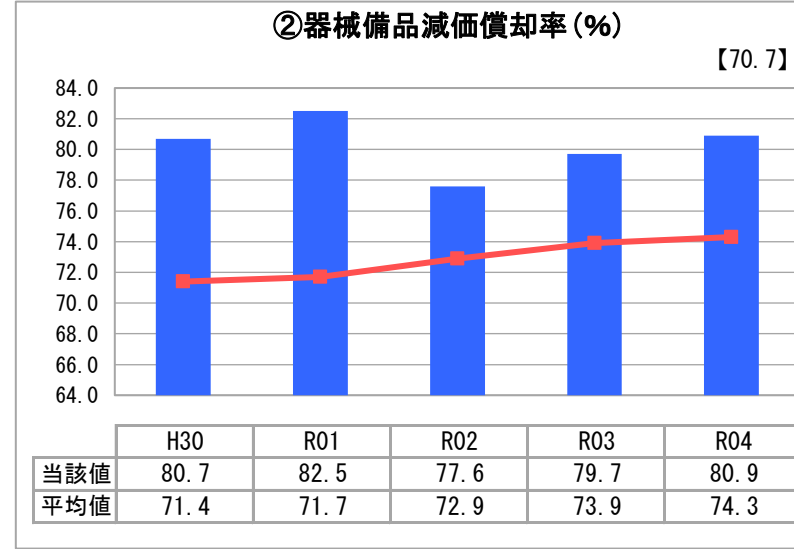
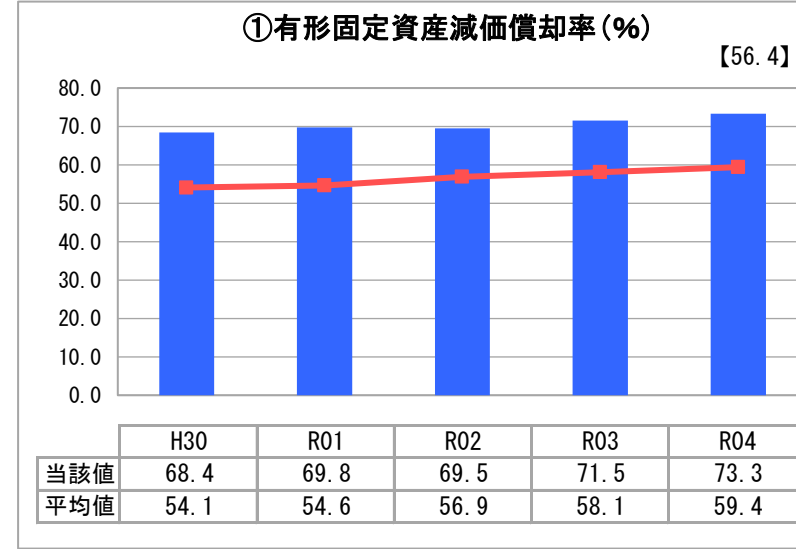
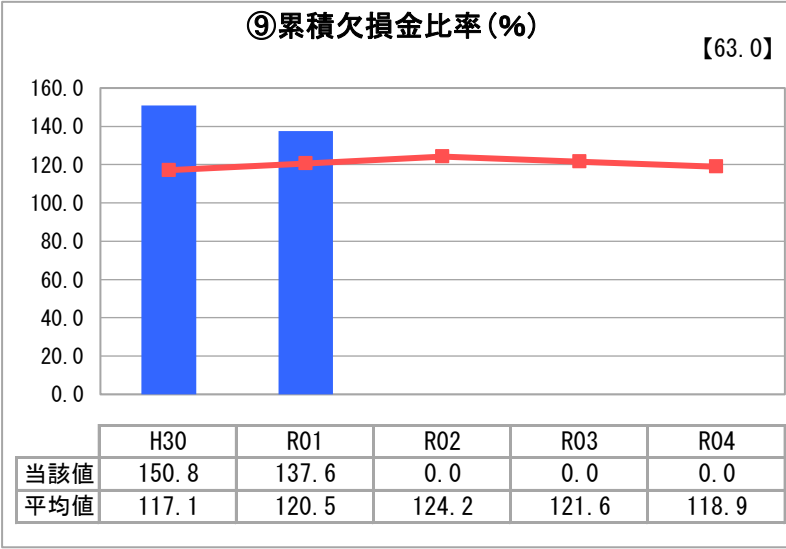
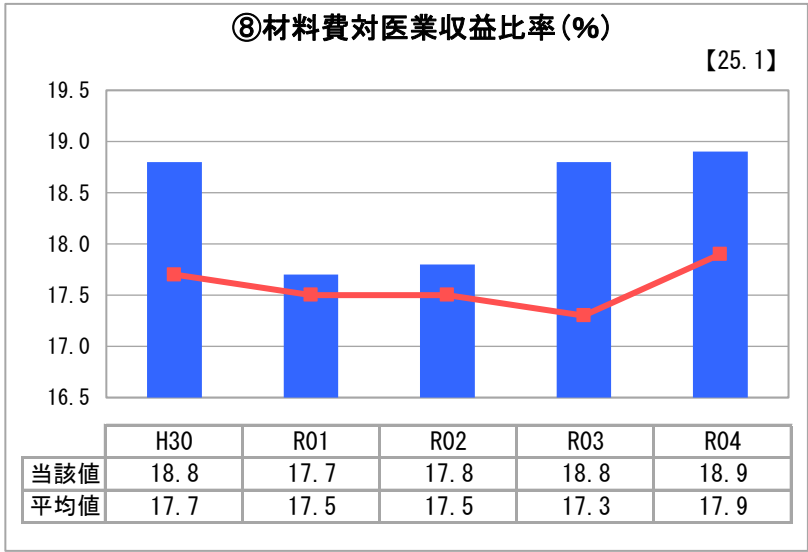
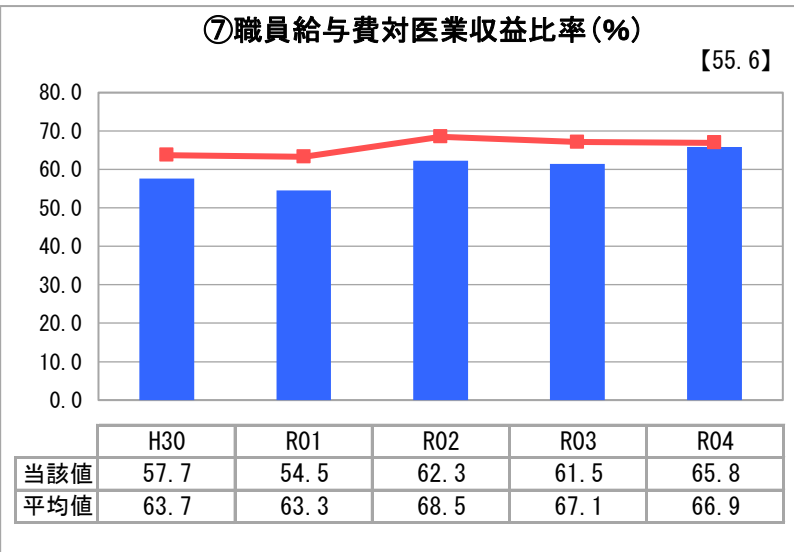
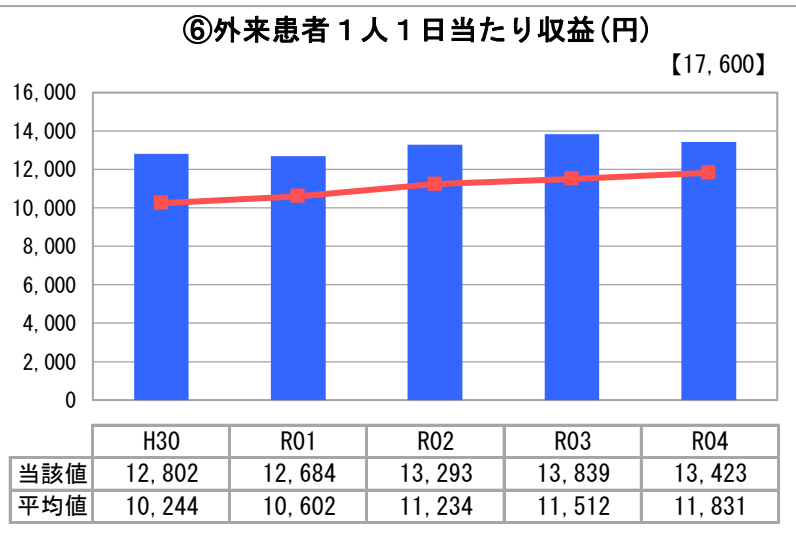
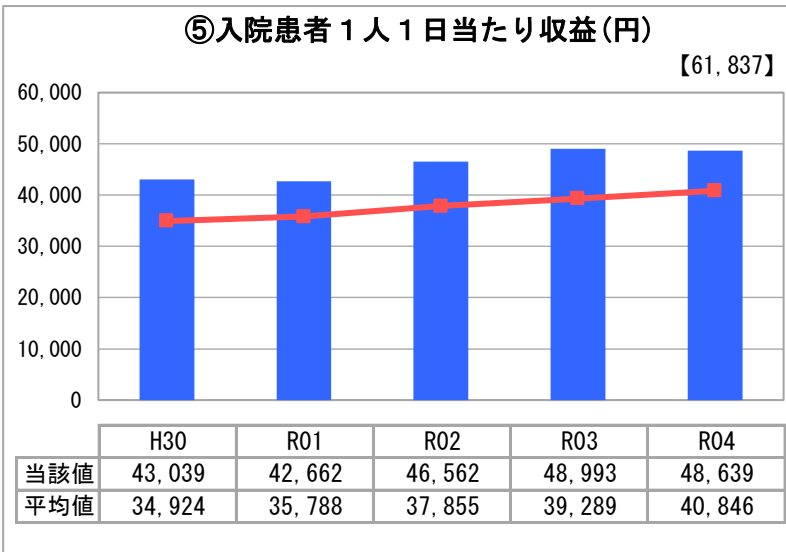
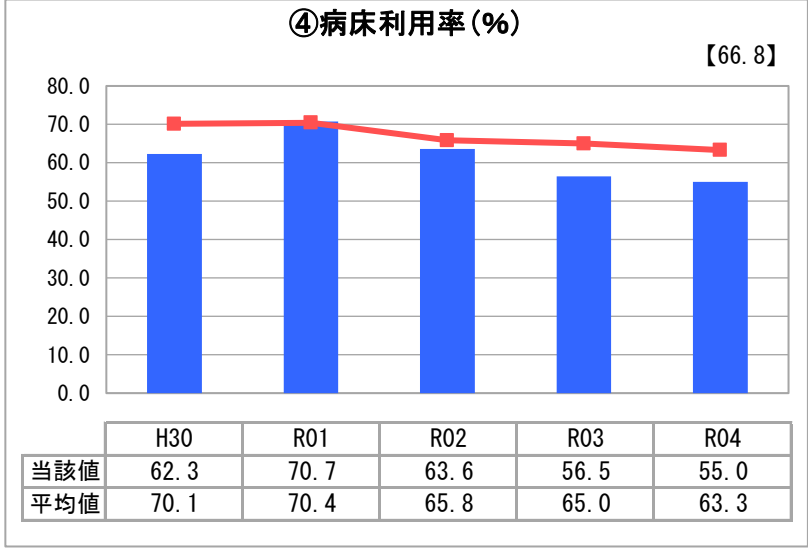
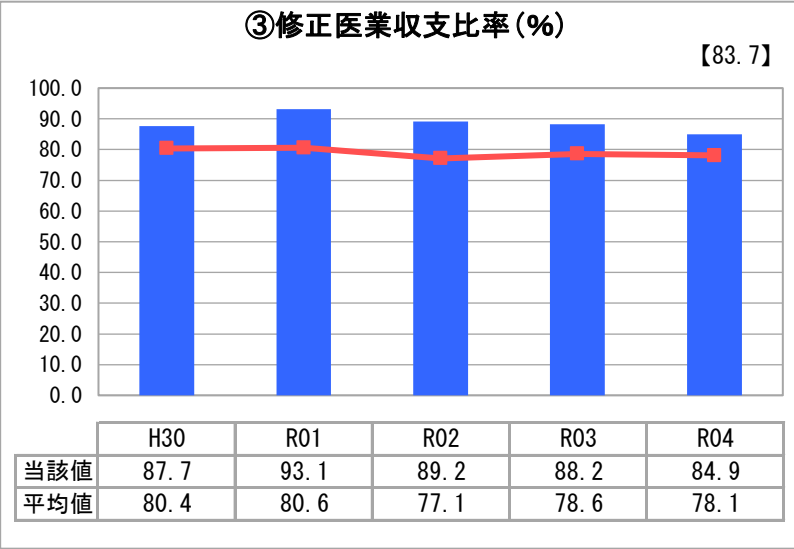
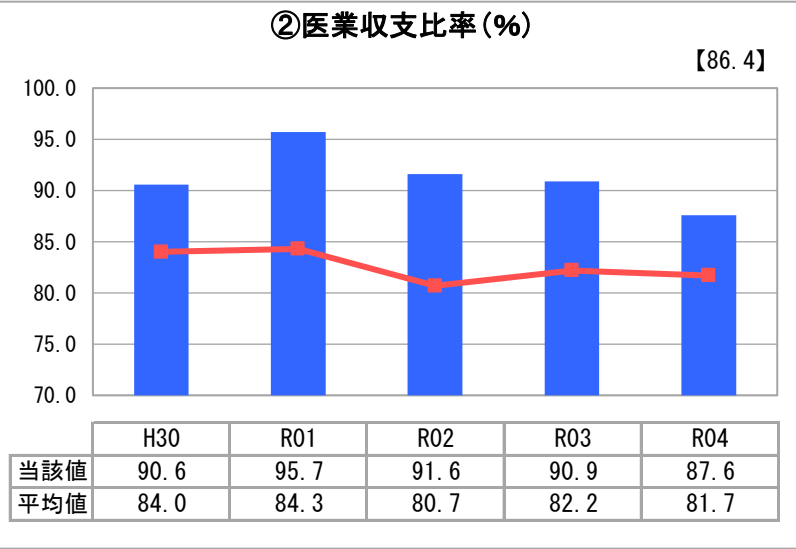
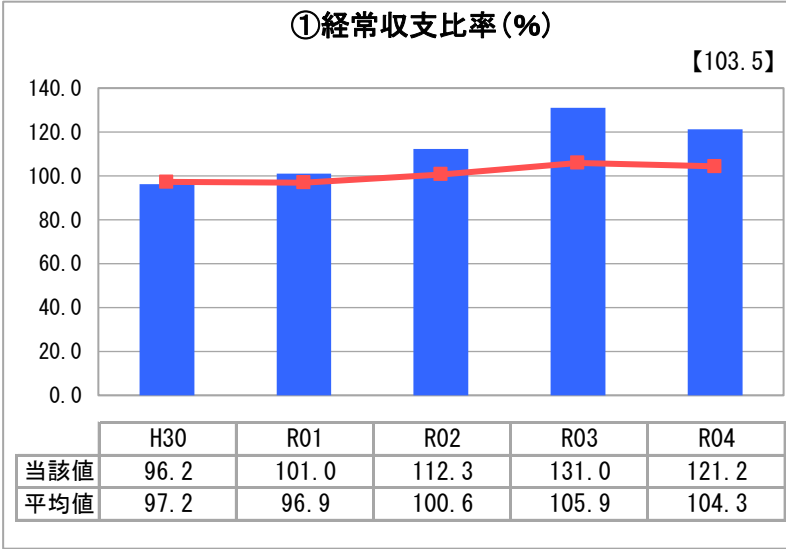
現病院は、建設から38年が経過し、新病院整備を進めており、有形固定資産減価償却率については、現病院に大きな投資をしていないことから類似病院平均値及び全国平均値に比べ、当院の投資額は低い状況となっている。

1床当たり有形固定資産については、類似病院平均値及び全国平均値に比べ、投資額は低い状況だが、現在新病院建設事業を進めており、現病院だけでなく新病院を踏まえ計画的かつ長期的な投資を行っている。

全体総括

前年度に引き続き救急患者受入れ体制の強化を図り患者確保に取り組んだ。
しかし新型コロナウイルス感染症重点医療機関として指定されており、1年を通して一般病棟をコロナ専用病棟としたことや、複数回院内クラスターが発生した影響もあり入院患者、外来患者は伸び悩んだが、コロナ関連補助金が約11億円あったため、約7億5千万円の純利益となり4年度連続の黒字となった。
引き続き経営改善に努め、本市及び西播磨地域の地域包括ケアシステムの中核を担う医療機関として、地域の皆様から信頼される病院を目指していく。

1. 経営の健全性・効率性



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。